

島前合宿を通して

私は8月22日から8月28日まで島前合宿に参加しました。私が島前合宿に参加しようと思った理由は二つあります。一つ目は先輩達が行っていた島前合宿の説明を聞き、とても楽しそうだなと興味を持ったからです。二つ目は大学生のうちに様々な経験や挑戦をしていきたいと思っていたのでこの合宿が新たな経験をする良い機会になると思い参加を決めました。また、なかなか行くことの出来ない離島に行くからには、何かを得て自分自身を少しでも変えられたらなと思いました。

今回私たちが訪れた島前とは島根県・隠岐諸島のうち西側の有人島である中ノ島、西ノ島、知夫里島の三島及び周辺の無人島により構成される群島です。私たちが主に生活をしたのは隠岐郡海士町で、その町はとても緑が多く空気や水がきれいな東京とは全く違った良さのある素敵な町でした。

東京から海士町に行くためには夜行バスで12時間、そしてフェリーで2時間半という今まで経験したことのないくらい長い旅で帰りたいたいという思いもありましたが、フェリーが島に近づくにつれてきれいな海と島全体が見えてきていつの間にか長旅の疲れも消え去っていました。フェリーが隠岐諸島に到着し海士町に着いた最初の町の印象は、とても自然豊かで町の雰囲気は穏やかでゆっくりとした時間が流れている感じがしました。フェリー乗り場からバスに乗り今回寝泊りさせていただいた場所までの移動中、私は町を眺めていて、今まで私たちの身の回りにあったコンビニエンスストアやスーパーマーケットなどが全くないことに気が付き驚きました。今まで私が生活してきた環境と島の環境の違いを感じた最初の経験でした。

一日目は島に着いてから島前合宿のメンバーと島の食材でバーベキューをしました。島で育てられた野菜を島民の方からいただき、島の野菜をふんだんに使ったバーベキューとなりました。野菜はどれもとても美味しく、島の自然環境の良さを食を通して感じることができました。バーベキューを終え町散策も兼ねて徒歩で宿泊所まで帰っている間、まだ夜の八時前だというのに町は街灯と月などの自然の明かりでのみ照らされていて、都内では体験できないような静かな中に虫の声だけが響き渡る心地よさを感じることができました。

二日目は有人島である西ノ島、海士町を観光しました。午前中は西ノ島へ行き黒木神社に行きました。黒木神社は元年2年、後醍醐天皇が配流され、約1年間住まわれたといわれる伝承の地で、島を代表する史跡の一つです。しかしこれほどの歴史のある神社にも関わらずあまり整備されておらず、地域をより活性化させていくためには、黒木神社のような歴史ある建造物を整備し守っていくことがこれからの重要な課題だと思いました。午後からは海士町に戻り海に向かいました。海士町の海は私が今まで見た中で一番透き通っていてとてもきれいでした。海士の塩という名産品が海から出来るのがよくわかるほど本当にきれいな海でした。その後明屋海岸に行き、幸運や縁結びのパワースポットとして人気のハート岩を見に行きました。自然によって造られた観光名所はとても素敵で、多くの人に海士町に素

敵な場所があるということを知ってもらいたいと心から思いました。この観光で来たときは分からなかった様々な観光名所があることを知りました。

三日目の午前中は西ノ島の中学校に行き、中学生との交流授業を図りました。中学生と交流する前に中学校の先生から様々な話を聞きました。その話の中で、西ノ島の中学生は大学生とふれあう機会が全くないことを知りました。また高校を選択するにも島前の高校に通う人と、離島を離れ県内の高校に通う人など選択肢が様々あり、それによって今までずっと一緒だった同級生と離れ離れになってしまうという話を聞きました。そして中学生にとっては私たち大学生と話すことは貴重な機会だと知り、少しでも大学のことや勉強のことなど、私が伝えたことで今までなかった選択肢が増えてくれたらいいなと思い、自分なりに今伝えられることを一生懸命話そうと思いました。今回の交流授業では、中学生1~2名と大学生1名でグループになり、大学生の生き方や大学はどんなところなのか、中学・高校で実践していた勉強のやり方などを質問形式で伝え、中学生が学んでいくという授業でした。私は自閉症を抱える女の子を相手に授業を行いました。事前に先生から自閉症であるという情報を聞いていたので、会うまではどのように接するべきかととても緊張していました。しかし実際に話してみると、私の不安とは裏腹に、自分で考えてきた素直な質問を聞いて来たり、私がそれについて考えたことを話すと必死にメモをとっていたり、真剣に私の話を聞いてくれてとてもいい時間を過ごすことができました。また話を進めていくと、その女の子には料理人になりたいというしっかりとした夢を持っていて、その夢の実現のために県内の料理の学校に通いたいとも言っていました。私は最初自閉症と聞いただけで少し偏見を持っていました。しかしその子の話を聞いて、私自身が学ぶことも多く、授業の中で伝える側の私が逆に、学ばされてしまいました。この交流によって、西ノ島の中学生の考えや選択肢が広がってくれたらいいなと思いました。この交流を振り返って、私がこれまで受けてきた教育以上に島の学校の先生たちの教育が手厚く、人数が少ないからこそ一人一人と向き合うことが出来るのが島の教育の良さであるなと思いました。

午後は西ノ島にある社会福祉法人であるシオンの園に行きました。シオンの園とは障がい者施設、高齢者施設、保育施設が同じ敷地に並ぶ福祉施設のことで、私は今回保育施設を見学しに行きました。シオン保育園には保育方針があり、保育目標として1、生活習慣の芽生えと自立を大切にする。2、キリスト教による情操教育を行う。3、他の人々と自然と共に生きる喜びを伝える。4、子どもの思いと家族の思いを大切にする。私たちは保育園の先生方に島の保育園に対する質問をして、その答えを聞いて保育方針そのものだなと感じました。私たちの質問の中で、島で育てることの利点は何かと聞いたところ、小さいころから地域の方々と交流が多いためコミュニケーションを自然ととることが出来ると話していました。小さいコミュニティの中だからこそ子供たちとより深い交流が図れることは、島保育特有の良いことだと感じました。しかし一方で職員の人数がギリギリであること、その背景には重労働であるにも関わらず低賃金などを挙げていました。これらの話はこれからの大きな課題の一つだと思いました。先生方とお話が終わり、その後は保育園児と少しの間交

流しました。みんなとても元気がよく、相手をするのにとってもへとへとになりましたが、それを上回るほど子供たちのかわいい笑顔に癒され、幸せな気持ちになりました。

四日目は、島の一大イベントであるキンニャモニャ祭りに参加しました。キンニャモニャ祭りとは、毎年夏に海士町で行われ、海士町の民謡「キンニャモニャ」を踊るイベントの一つです。町民は木で作られたしゃもじを使い、約一時間長い列をつくり踊り続けるのです。私たちは飛び入り参加枠でお祭りに参加させてもらいました。一時間踊り続けたことはなかったのですが結構大変でしたが、その最中に町民の一体感を感じることができとても良い経験でした。踊りが終わった後、とても近くで豪華な花火を見ることができ、海士町の綺麗な星空と花火を一度に見ることができ最高の思い出になりました。

今回の島前合宿を通して人のあたたかさを感じ、最初の印象と変わらずに自然が豊かで時間に支配されずに生活の出来る町だと感じました。五日間の中で島の方々と触れ合う機会が多くあったのですが、どの方も私たちに対して優しく接して下さり、都会とは全く違い島で暮らすことの良さを感じることができました。私はこの合宿に来る前何か新しいものを得て帰ってきたいと思っていましたが、限られた短い期間の中で濃密な時間を過ごすことができ、私にとっても学ぶことの多い五日間になりました。